

中国・四国支部活動報告
「2020年中国・四国地域木材関連学協会支部合同セミナー」

2020 合同セミナー事務局 吉原 浩, 吉延匡弘, 加藤定信(島大院自科)

2020年12月3～4日に公益社団法人日本木材加工技術協会中国支部(河崎弥生支部長, 岡山森林研)との共同主催により, 「2020年中国・四国地域木材関連学協会支部合同セミナー」が開催されました。新型コロナウイルス感染症の拡大防止から移動制限や3密回避が課されることによって, 当支部においては本年3月の年次大会(鳥取)の現地開催中止に続いて, 同9月に予定していた第32回支部研究発表会(徳島)も次年度へ延期されました。このような状況下で支部内では継続的な研究成果発表の機会を求める声があり, またコロナ禍終息の見通しが立たない中での支部活動の在り方を検討していくための情報収集を行う必要があることが確認され, 本セミナーを開催するに至りました。

本セミナーは計画当初より支部研究発表会とは全く別のものとして位置付けるとともに, 今後のためにいくつかの試行を兼ねて開催しました。試行の一つ目は, これまでにも相互に主催・共催・後援での協力関係にありましたが, 日本木材加工技術協会中国支部からの賛同が得られたことにより, 両支部の共同主催による初めての行事となりました。

二つ目として, オンライン形式で開催したことです。対面形式では開催できないという消極的な理由が発端でしたが, 対面形式に近付けるのではなく, オンライン形式の良さを活かす方針で開催することにしました。発表はオンデマンド形式で配信し, 発表者が口頭発表12分に相当するMPEG動画またはPDFファイルのいずれかを選択して発表ファイルとしました。質疑応答も, ウェブ上のスプレッドシートを利用して行いました。

三つ目として, 育成参加枠を設けました。木材科学や木材産業を担う次世代の研究者と技術者の育成活動の一環として, 本セミナーでは参加資格を有しない大学・大学院学生, 公設試験研究機関研究員および関係団体職員に対しても, 授業あるいは研修として参加可能としました。育成参加には, 要旨集の閲覧・ダウンロードおよび発表者への直接質問を不許可とする制限を設けました(発表ファイルの視聴および育成参加申込代表者を通じての質問は許可しました)。

セミナーの参加者数は一般参加28名, 育成参加37名, 計65名でした。一般参加者の内訳は, 大学から18名(内学生5名), 公設機関から9名, 企業から1名でした。育成参加には授業6件と研修1件の参加があり, それぞれ学生27名と団体技術職員1名の参加がありました。

発表件数は大学から7件および公設試験機関から7件, 計14件でした。発表分野は広くに渡りましたが, 中国・四国地域の特色として強度分野および乾燥分野から多数が発表されました。発表ファイルの形式別では, MPEG動画8件, PDFファイル6件でした。若手研究者による発表からは優秀発表賞が選考されましたが, 松尾 瑠菜氏(広大院工)ならびに持田一成氏(島大院自科)の2名が受賞されました(受賞者は五十音順)。

発表14件に対する質疑応答の総数は61件であり, 9件もの質疑応答が行われた発表もありました。質疑応答の成否は懸念事項の一つでしたが, 非常に活発な討論が行われましたことは本セミナーの運営者として大変嬉しく思っています。

セミナーの概要は以上の通りですが, 参加者からの感想や意見などを簡単に紹介します。両支部による合同セミナーについては, 良い試みであったとの感想に加えて, 継続を求める意見が出されました。

オンデマンド形式による発表については、視聴時間を各人の都合で自由に設定できること(注:開催期間中であっても時間帯制限は設けていました)、繰り返し視聴できることなどから好評でした。発表者にとっても、準備するファイル形式を選択できるために発表準備が容易であったとのことでした。

スプレッドシート利用による質疑応答についても、熟考の上で適切に質問および回答ができること、対面形式よりも数多く質問できること、質疑応答ファイルを見た上で発表ファイルを再度視聴できるために理解が深まることなどから概ね好評でした。一方で、発表視聴と質疑応答の時間を同一としていたことから、回答あるいは回答閲覧が時間内に行えなかったとの指摘がありました。

育成参加の学生からは、全ての発表を視聴できるように自身の専門以外の研究・技術開発を学ぶことができた、木材科学と利用技術について知ることができた(木材に関して専門外の学生から)、分かり易い発表技術が参考になったなどの感想が寄せられました。また、日頃から様々なウェブサイト慣れ親しんでいることによると思われますが、本セミナーのウェブサイトデザインの改善についても参考になる意見が出されました。

本セミナーは参加費無料としましたが、経費削減を心掛けることによって、結果的に低予算で開催することができるとともに、運営の負担も対面形式と比較して軽減されました。一方で、各種電子情報についての取り扱いとセキュリティ保全には慎重にならざるを得ず、参加者へ不便を強いるところもありました。今後の合同セミナーについては両支部で検討を行っていくこととなりますが、合同セミナーや支部研究発表会をオンライン形式とする際には本セミナーでの改善点や参加者からの意見が反映されることによって、さらに容易に参加できるとともに負担を軽くして運営できるように思われます。

事前協議・準備を含めても5ヶ月足らず、開催アナウンス(第1回会告公開)からは約2ヶ月と、バタバタと駆け足で開催しました。運営の不行き届きが多々ある中で、会員の皆様のご理解とご協力により、トラブルなく開催することができました。また、共催いただきました森林バイオマス利用学会様(伊藤和貴会長、愛媛大農)、ならびに後援いただきました国立大学法人島根大学総合理工学部様(廣光一郎学部長)には多大なご支援を賜りました。この場をお借りしまして、厚く御礼申し上げます。